

自分の成長に気づいて

——1年前と比べて、書けるようになった漢字の数はいくつ？

——1か月前は毎朝、親に起こしてもらっていたけど、今は自分で起きているよね。

「今の自分だからこそ、できるようになったことは何か？」と探してみると、感じ方は大きく変わって、自然とやる気が出てきます。

子どもたちは十人十色。得意なことでも苦手なことでも違いがあります。子どもたちに関わる親御さんも先生も、他の子と比べるのではなく、その子自身ができるようになったことを認めて応援してあげてください。そうした大人の関わりと環境があれば、子どもたちが持つ可能性の芽を育てることができると思います。

1年間お読みいただきありがとうございました。

（発達支援塾アットスクール代表 鈴木正樹）

子どもたちの夢と希望が入ったバールンが大空高く飛んでいく（昨年10月31日、生徒たちがボランティアで参加した草津市でのイベントで）

十人十色

23

子どもたちの今

ご縁があり、ちょうど1年前の2021年4月に「十人十色 子どもたちの今」が始まりました。これまで22回の連載では、私自身が発達障害や不登校児の支援をする中で、出会った子どもたちや保護者の悩みを解決するヒント、支援に関わる先生方へのエールを込めて書かせていただきました。今回は最終回になります。

子どもたちの自尊感情を向上させるために一番大切なことは、「他人と比べるのではなく、過去の自分と比べて何ができたようになったか？」に子ども自身が気づくことです。

発達障害や不登校の子どもたちの多くは、勉強や運動、コミュニケーションが苦手なために、学校という場になじめない、学校という場になじめず、「自分はダメだ」と自信

自尊感情の向上

を失っています。自信がないため、新しいことに挑戦するにもためらいがあります。

「僕は他の子と比べて勉強ができない」「私は音読が遅い」「友だちは九九が覚えられるのに僕は覚えられない」など、相談にくる多くの子が、他人と比べて自信を失っています。そんな子どもたちにはいつも「比べるのは他人ではなく、過去の自分とだけでいいよ」と伝えます。

